広報まき

1972年6月28日
第150号
発行　新潟県巻町役場
電話（代表）(2)3131
編集　商工観光課
印刷所　北洋印刷株式会社

住民基本台帳人口
（昭和47年5月31日現在）
総人口　27,387人
男　13,327人　女　14,060人
世帯数　6,201

ごみ戦争に挑む 巻町ほか三か町村衛生組合
20トン焼却炉を増設
五千二百万円で十一月末完成

一日三十トンのごみ処理能力を持つ巻町外三か町村衛生組合立（管理者巻町長江端一郎）のごみ焼却場は生活水準の向上に伴い年ねんふえるゴミの量に二十トンの焼却炉を増設、完成後は合わせて五十トンの焼却能力を有します。
六月十四日現焼却場脇で十一月末完成めざし二十トンの焼却炉建設の起工式を行ないました。

ごみの処理は町のもっともだいじなしごとです。一日町民一人当たり九八〇グラムのごみも町全体となると二十五トンの大量のものとなります。

昭和四十三年五月、巻町・西川町・岩室村・潟東村の四か町村組合立で造った一日三十トン焼却能力のごみ焼却場は、当時のごみ排出量から推定、昭和五十年ごろまでだいじょうぶとの見通しでした。

しかし、生活水準の向上で家庭から出されるごみの量はウナギのぼり。現在、平均三十五トンのごみが収集され焼却処理と埋め立て処理を併用、急場をしのいでいます。

新たに増設される二十トン焼却炉は、現有のものと全く同じ直接式セミ機械炉で揺動ロストルを採用。煙突は既設のものが五十トン焼却を想定、建設してあるため接続併用します。特にばい煙による公害防止を考え洗煙にシャワー装置を取り付けます。

建て物は鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造り二階建て延べ三百七十一平方㍍で総工費五千百六十万円。十一月末完成後炉をいためないため養生期間を一か月置き、四十八年一月から二十トンのフル運転にはいります。

ごみは水分を切って

せっかくごみ焼却場を増設しても各家庭から水分の多いごみを出されては十分その能力を発揮できません。ごみはいつも水分を切ってからお出しください。

急増のごみ排出量に増設を迫られた現焼却場

（角田集出荷場に運び込まれたスイカ）

〝夏の味覚〟出荷始まる

町の砂丘地帯で夏の味覚スイカの出荷シーズンを迎えました。
農協角田支所でも6月20日，新装なったマンモス集出荷場にハウスものの早生日章スイカの初出荷がありました。今回の出荷先は県内市場向け。
味も作柄もまあまあのうえ価格も2割高とスイカを運んできた農家の表情も明るい。ハウスものの強味は露地ものより1か月くらい早く出荷できるため市場価格が良く産地間でも年ねん早出し傾向にあるという。
スイカ出荷は7月10日ごろから最盛期に入り，北海道，関西方面にピストン輸送されます。

数万の人出でにぎわう 町中まつり一色

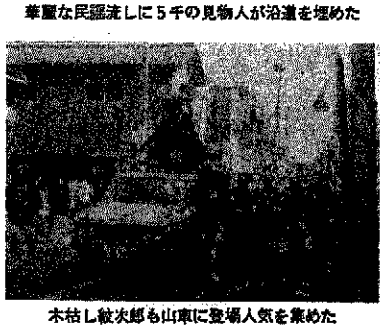
郡内夏まつりのトップを切って行なわれた巻大祭は多彩な行事と好天にめぐまれたこともあって非常な盛り上がりを見せ、近郷近在から数万の人出でにぎわいました。

前夜祭の呼び物として毎年好評を呼んでいる「やかたおけさ」の民謡流しに七百人の踊り子が参加、輪も大きくふくらみました。特に本年は東京から民謡界の重鎮浜田喜一さん、久保田耀峰さんを特別ゲストに招き花をそえました。

十五日の午後子どもたるみこしがワッショイワッショイと町内に繰り出すころにはまつりムードも最高潮に達しました。山車にはテレビ番組の英雄〝仮面ライダー〟〝ウルトラマンエース〟〝木枯し紋次郎〟がさっそうと登場こどもたちの人気をひとりじめ。愛宕神社では相撲巡体県予選が行なわれ、県代表めざして好勝負が展開されました。佐渡の鬼太鼓も各地で勇壮な舞を見せました。夜は国道一一六号線東側で大スターマイン十六発を含む二百発の花火が夜空に咲きました。

十六日も各種行事で終日にぎわいました。

華麗な民謡流しに5千の見物人が沿道を埋めた


木枯し紋次郎も山車に登場人気を集めた

交通安全県宣言十周年
10日〝事故ゼロ〟誓い新たに

七月十日は交通安全県宣言十周年記念日にあたります。

この日は全県民が輪禍の犠牲となった事故者のめいふくを祈り、人命の尊さを知るとともに交通ルールを正しく実践することをお互いが確認しあい、交通事故のない明るい新潟県をきずくため誓いを新たにする日です。

14時30分に サイレン吹鳴

当町でも午後二時三十分のサイレン吹鳴を合図に交通事故による死亡者のめいふくを祈り、あわせて交通事故防止の自覚をあらたにするため一分間の黙とうをささげますので、町民のみなさんもご参加ください。

なお、当日学時に街頭指導を行ない、交通安全を呼びかけます。

歩道はみんなのもの
不法使用やめよう

都市下水路上にフタをして造った歩道は歩行者の交通安全に役立ち町民から好評を博しています。

しかし、最近この歩道板の上に車を乗り入れたり、建築工事の資材を置いたりして人が通行できず歩道の役目をはたしていないところがあちこちで見受けられます。

歩道は町民みんなのものですから自分勝手な歩道の使用はやめましょう。

7月13日巻公民館で 交通事故相談所

■交通事故相談所が七月十三日巻町公民館で午前十時から午後三時まで開かれます。

交通事故の被害者、加害者で補償問題などに困っている方は気軽においでください。担当は県交通事故相談員。

町施設めぐり参加者を募集

町では、本年度も目で見る町政「施設めぐり」を三回実施します。

第一回目は七月二十八日定員四十人。定員以上の申し入れのあった場合は抽せんを行ない、結果については個人通知します。参加費無料。昼食とスリッパをご持参ください。申し込みは七月十五日までに商工観光課広報係あて申し込んでください。

見学施設は、広域行政のごみ処理場、し尿処理場、葬祭場妙有院、生活用水の水道、老人いこいの家薄雲荘、災害とたたかう消防署、四千人の給食を作る学校給食センター、青少年研修の場巣青少年研修センターなど八か所を一日かけて回わります。

これからの施設は町民のみなさんから納めていただいた税金や国県の起債、補助金で造られたものばかりです。ぜひ、この機会に施設めぐりに参加され〝税金のゆくえ〟をご自分の目で確認され、町政にご理解をたまわりたいと思います。

国民年金額アップ
7月から保険料五百五十円に

来月から国民年金の年金額が改善され大幅に引き上げられます。

そのおもな内容は次のとおりです。（ ）は改正前

拠出関係では障害年金が一級で十三万二千円（十二万円）二級で十万五千六百円（九万六千円）、母子年金が十万八百円（九万一千二百円）にそれぞれ引き上げられます。

また、福祉年金関係では七十歳から支給を受ける老齢福祉年金が月額二千三百円（二千三百円）に、障害福祉年金が年額六万円（四万八百円）に十月からそれぞれ引き上げられます。

このように年金額が引き上げられますと保険料もそれに見合った引き上げが行なわれることになります。昭和四十五年七月に年金額が改善され夫婦二万円年金が実現しました。そのときに保険料も四十五年七月から月額四百五十円、四十七年七月から月額五百五十円に引き上げられることに決まりました。

したがって七月以降の保険料が五百五十円になりますのでご了承ください。

加算年金保険料は月額三百五十円と変わりませんので加算年金加入者は七月以降五百五十円に三百五十円プラスした九百円を納めることになります。

善意二件

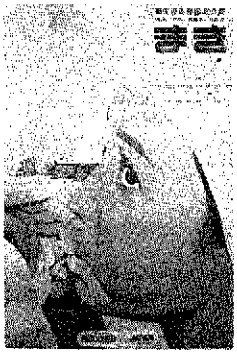
稲島大谷善一郎さんは亡父の香典返しとして一万円を社会福祉協議会に寄付してくださいました。また匿名で二千円の寄付がありました。

写真ニュース

角海浜で珍しい麦おとし

過疎現象が進み廃村寸前の角海浜で六月十一日全住民八人が参加、角海浜独特の〝サナ〟を使い麦おとし作業の実演会（写真）を行ないました。

町文化財調査審議会と町史学会は廃村のうきめにある角海浜の民俗資料を収集、後世に伝えようと、さる四十五年春から角海浜で行なっており今回の麦おとし実演会も収集した〝サナ〟を使って行なわれたものです。この模様はつめかけた関係者や新聞記者のカメラに収められました。



海のポスターできる

町では、海水浴客の誘致をはかるため海のポスター大二百枚（写真）、小五百枚を作成、県内外の主要駅に掲出します。

〝二代目〟救急車登場

「ピーポー、ピーポー」と交通事故負傷者、急病人を乗せ大活躍した〝初代救急車〟が二代目にバトンを渡し第一線を退きました。今後は予備車として待機します。初代救急車は四十一年六月、日赤県支部から消防署に配車されて以来まる六年で延べ九百六十七人を病院に運びました。

日赤県支部からこのたび二代目（写真）として巻・湯東消防署に配車された救急車はいちどに二人の負傷者を運べる新鋭車で町民から大きな期待をもたれています。

防炎カーテン威力発揮

大火を未然に防ぐ

さる五月、ある保育園でこどもの火遊びから火災が発生、幸いに施設が防炎カーテンを使用していたことで、建物の一部をこがす程度のボヤで鎮火したケースがありました。

消火に出動した消防署員は黒くちぢんだ防炎カーテンを見た時、これが燃えるカーテンだったらと身の細るおもいだったそうです。

火災は一般に瞬時で大火となるものでなく、初めはマッチ、線香、タバコの火のような小さな火元から接触する付近の燃えるものから徐々に広がってゆくものです。

防炎は最も有効な予防手段

火の用心に失敗して燃えるものに移っても紙や布が一少こげたとしても自動的に防炎されたものであれば多火勢を押え延焼を防いでくれます。

規制対象物

映画館、集会場、遊技場飲食店、児童福祉施設など多数の人が集まる建て物、施設のカーテン、暗幕、どん帳、工事用シート、展示用合板などが防炎規制の対象となっています。

町、消防団にポンプ6台引き渡し

町では、消防力の強化充実をはかるため、年次計画で老朽化した可搬動力ポンプの更新をしています。

本年度も六月十二日巻神社で消防ポンプ引き渡し式を行ないました。お祓いを受けたあと江端町長が和田消防団長に機能的な可搬動力ポンプ六台を引き渡し、和田団長は次の分団（班）に配置しました。

潟頭（加藤寅雄班長）、桜林（梅沢小太郎班長）、松野尾（山本誠一班長）、越前浜（鴨敏穂班長）、仁箇（石山由栄班長）、稲島（本間捷治班長）

江端町長から和田団長に消防ポンプ引き渡し

農業の道しるべ

緑の砂漠

西村欣策

米の問題はいま、大事な時期に来ている。なるほど農家であっても、米に全然関係のないものも多いし、まして農家でない人も多い。

しかし、米の問題は、たんに米だけの問題ではない。それは、米がどう取り扱われるかということは、日本の農業をどうしようとするのか、ということに通ずるからである。

「日本の経済発展」ということを大義名分にして、農村から労働力を吸収し、農村人は、近代化というかけ声で、苦しい農業の機械化を進めて来た。

いままた、経済の曲り角で、農産物価の抑制と、生産の調整をもって、局面打開の策とされている。

この政策的、人為的な施策の中に、他の物価は急騰して、「米価は、物価上昇の元凶」などといった人たちに責任を追求すべき状態になった。

そのために、農業者の悩みは表現のしようもない、農業白書でさえも、農家の経済は、恐慌状態に入ったと、いわざるを得なくなった。

ここで、自立経営農家の確立をはからなければ日本の農業は、どうなるのかわからない。

昔から、農業施策の失敗は、政治責任者の失脚につながる、といわれて来た。

日本も、いまの状態を長く続けるときは、日本の農村は、壊滅するおそれがあると、もっと真剣に考えねばならなくなったのである。

日本の経済成長が可能になった最大のものは、農村が安定し、農業振興という基本的なものを長く続けて来たからである。

このいわれが、経済界にわかっているのか、政策マンに理解されているのか、疑問になった。

農村はいま、人の生き得ない環境になった。

人間の育たないところは砂漠である。それが、草も木も育つ「緑の砂漠」という奇怪な現象が、この日本の中にでき上がっているのである。

農村のこと、農業のことは、いまや、日本人全体の問題として、もっと真剣に考えねばならなくなったのである。

9日巻小でママさんバレー

町婦人バレーボール親善大会が七月九日午前九時から巻小学校体育館で行なわれます。

同大会を通して婦人の体力づくりと健康な身心の保持増進をはかろうというものです。

参加資格は、町に住む既婚女性で編成されたチームの競技者の平均年齢が二十八歳以上。一チームのメンバーは十四人。

大会出場の申し込みは七月七日までに巻町公民館へ。

予防接種

日本脳炎

町では、日本脳炎の予防接種を行ないます。対象は三歳から十五歳までの希望者。料金一回百六十円、希望者は接種当日体温を計って会場に来てください。また、生徒、園児は学校、保育園ごとにそれぞれ行ないます。

日本脳炎予防接種日程表

回数	月日	会場	時間
1回目	7月3日	役場分室	13時30分～14時30分
2回目	7月11日		

あなたは今月で70歳

老齢福祉年金が請求できます

あなたは今月の誕生日での年金が中尉以上のものを満七十歳になられ、老齢福祉年金を請求するとき（中尉以下であれば老齢福祉年金は全額支給されます）②普通恩給、普通扶助料、退職年金などの一般の年金を福祉年金額（老齢二万九千六百円、障害六万円）以上受給しているとき

■今月該当者のおもまえ

大橋リセ、小林フデ（一区）、伊藤五平（福井）、山添要之助（十二区）、本間吉三郎（竹野町）、山添カウ（角海浜）、長谷川治作（河井）、樋浦ヨシ（前組）、内藤作太郎（劇前）

■所得の制限　①本人に年間三十六万円以上の所得がある場合②扶養義務者に所得がある場合（たとえば、扶養家族数五人の場合二百十三万八千六百二十五円）

■公的年金を受けているとき　①戦争公務にもとづく公務扶助料、遺族年金など

公民館図書室

新刊書のごあんない

町公民館図書室では、新刊書を購入しましたので、大いにご利用ください。

図書の貸し出しは午前九時から午後五時まで。日曜日、祭日および平日の時間外は宿日直の職員に申し出て借りてください。

おもな新刊書名は次のとおりです。

写真集富士（岡田紅陽）輪現（瀬戸内晴美）話し方のマナー（塩月弥栄子）生きがいの未来学（黒川紀章）越佐人物誌（牧田利平）へも絵のうち（眼谷守一）続生命ある限り（曽野綾子）結婚の夜（有馬頼義）十二支物語（諸橋轍次）隣家の人々（上下）（北杜夫）雨の朝パリに死す（飯島淳秀訳）秋山記行夜職草（鈴木牧之）私の恋愛論（吉行淳之介）谷川岳の霧と星（安川茂雄）山の遺言（安川茂雄）自然食のすすめ（寺島文夫）日本人と敬語（奥山益朗）小さな恋の物語（みつはしちかこ）女性はたべられない（三浦朱門）猫をうつ女（李恢成）狼なんかこわくない（庄司薫）黒地の絵（松本清張）蒸発（夏樹静子）叱られ京太（松原泰道）街道をゆく（司馬遼太郎）東海道をつっ走れ（早乙女貢）日常茶飯（大河内一男）郷土の玩具（牧野琉太郎）

特設人権相談所

とき　7月20日　10時～15時

ところ　巻町公民館

7月の休日救急病院

2日	県立吉田病院	（吉田町）
9日	町立巻病院	（巻町）
16日	県立吉田病院	（吉田町）
23日	町立巻病院	（巻町）
30日	桑原医院	（巻町）